A magazine about Shimane Prefecture, Japan

梦之港

Vol.42

花のある島根の風景

自然豊かな学生生活

２０００年の古代ハスを育てること
――地道な努力により語り継がれるストーリー――

故郷を守る植物・海岸線の白い花――「ハマボウフウ」

岛根的风中有花香

自然丰富的学生生活

保育2000年的古代莲花 ——在脚踏实地、不断试错中延续的生命故事

守护家园的植物、海岸线上白色的花—“滨防风”

自然丰富的学生生活

三浦carolina百惠

在学校里竟然有植物园，是不是很酷!

岛根县立高中有着全日本唯一一个校内植物园。

——平田植物园。

这个四季变换的植物园是由当时的教育家平田駒太郎先生于1904年创立的，因此得名“平田植物园”，已有超过一个世纪的历史。平田植物园包括出云高中的校地和被称为久徵园的山区。参观平田植物园有四条路线，其中两条路线穿过校舍区，另外两条路线在久徵园内。

久徵园的主要路线会经过凉亭和野生鸟的饮水处，它们位于通向山顶广场的楼梯途中。你可以听到野生鸟的鸣叫声和树木在风中摇曳的声音，这是一个令人心旷神怡的宝贵空间。久徵园对学生来说非常亲近，甚至在出云高中的校歌中也有

自然豊かな学生生活

三浦カロリナ百恵

学校に植物園があることを素敵だと思いませんか。

島根県立出雲高等学校には、全国にも類のない学校植物園が存在しています。それが平田植物園です。

季節を彩る植物が集まる植物園は、1904年に当時教諭であった平田駒太郎氏によって創設されたため「平田植物園」と名付けられ、すでに一世紀を超えた伝統のある場所です。

平田植物園は、出雲高校の校地と久徵園と名付けられた裏山を含む一帯を指しています。

平田植物園を巡るためには4つのコースがあり、校舎間に2コース、久徵園に2コースあります。

久徵園のメインコースは、山頂広場に向かう階段の途中にある東屋や野鳥の水飲み場を通ります。野鳥の鳴き声や風に揺れる木々の音も聴くことができて、心安らぐ貴重な場所であり、出雲高校の校歌の一部分でも久徵園が歌われているほど、生徒にとって身近な場所であることには違いありません。

久徵園のサブコースでは、冬に咲く肥後椿のトンネルをくぐり抜けて、階段からグラウンドを見下ろすことができます。四季の花々を観察しながら散歩できるのが魅力的で、学生生活のいつの時期でも記憶に残る植物園です。

また、校舎間のコースでは、平田先生が植えた一世紀を超えるラクウショウやテーダマツ、大王松等が今でも残っており、2005年に行われた校舎改築では、これらの樹木を保つよう慎重に工事が行われ、学舎内の緑の環境を守る熱意が伝わります。

植物園を末永く守るために卒業生にも協力してもらい、生徒や教員が年1回秋頃に管理や手入れ、除草等のボランティア整備活動を行っています。また、植物の名前、科名、特徴を名札板にして取り付けを行ったり、ガイドブックの「平田植物園めぐり」やパンフレット制作を行ったりと、植物園の素晴らしさを様々な形で見せるように心がけています。

ボランティア活動には数十年前の卒業生も参加しているため、お手本となる方々が熱心に植物園を守ろうとしている姿が、きっと今の生徒の心に響いているのではないかと思います。

71年間継続して植物園の管理人がいて、同時にボランティアがいるからこそ

自然豊かな学生生活

歌颂久徵园的部分。

在久徵园的次要路线上，你可以穿过冬季盛开的肥后椿花隧道，从楼梯上俯瞰操场，一边欣赏四季变换的花卉，一边散步，是让学生们难忘的植物园。

此外，在校舍间的路线上，仍然保留着平田先生种植的超过一个世纪的落羽松、火炬松和大王松等植物。在2005年进行校舍改建时，非常谨慎地保护了这些树木，体现了对校内绿色环境的保护决心。

为了长期保护植物园，毕业生们也参与志愿维护活动，每年秋季学生和教职员工都会进行管理、维护、除草等工作。此外，还制作了标示植物名称、科属和特征的牌板，并编制了《平田植物園之旅》的导览书和宣传册，通过各种方式去用心的展示植物园的魅力。

数十年前的毕业生也参与到志愿活动，他们成为榜样，积极保护植物园的精神对现在的学生们产生了深远的影响。平田植物园已经被持续管理了71年，可以说今天的平田植物园离不开管理人员和志愿者们的贡献。

从教室能够望到植物园和中庭，这对每天面对繁重学业的学生们来说弥足珍贵。我认为这些绿意盎然的环境具有释放压力、舒缓心灵的力量。为了维持这种充满魅力的学生环境，跨越世代的人们需要团结合作，共同保护。为了平田植物园的下一个一百年，我衷心希望这种美好的保护活动能持续下去。

今の平田植物園があると言っても過言ではありません。

教室から眺める植物園や休憩時間にのんびりできる中庭は、毎日忙しい学生にとって大切な存在であり、日々のストレスから人々を解放し癒す力があると思います。自然に溢れた魅力的な環境での学生生活を維持するために、世代を超えて、様々な人が力を合わせて守っていく必要があると思います。平田植物園の次なる百年の森づくりのために、これからも素敵な保護活動を継続できることを心から願います。

保育2000年的古代莲花
——在脚踏实地、不断试错中延续的生命故事

郭小轩

“据说这是开得最盛的一年，”荒神谷博物馆（以下简称“荒神谷”）副馆长青木昭指着博物馆外墙上挂的大照片说。荒神谷内有六片古代莲田地，鼎盛时期的种植面积达到5000平方米。

荒神谷的古代莲，品种名叫大贺莲。1940年代，日本为了缓解燃料不足而寻找地下草炭资源时，在千叶县检见川一带的湿地下意外发现了绳纹时代（约前1400年—前1000年）的船坞港，还在其中发现了三粒莲花种子。1952年，植物学家大贺一郎博士成功让其中一粒开出了粉色的花。经芝加哥大学原子核研究所的土壤测定，确定种子为弥生时代所结（至今2000年—3000年前）。从此，该莲花被命名为大贺莲，轰动世界。

后来，大贺莲被指定为千叶县天然纪念物，并作为友好亲善与和平的象征，通过分根或分株的方式被赠与至日本各地乃至世界多个机构。在几十年的时间里，第一波得到大贺莲的这些机构又将其繁殖，再赠与至更多机构。如今，具体有多少个机构种着大贺莲，青木都不清楚。荒神谷的莲花则是于1988年由岛根县大田市所赠。

不过在保育这些莲花的日子里，并没有太多我们中国人喜闻乐见的宏大叙事，更多的是脚踏实地、不断试错。

“今年算是开得不错了，”青木说。当初，大田市赠与的莲花有15株，种植面积为1220平方米，虽然现在从鼎盛时期又缩减到了4000平方米，但说起来，有好一段时间莲花数量也大幅减少，经过一番苦战，才恢复到了现在的状态。“这里有

2000年の古代ハスを育てること ―地道な努力により語り継がれるストーリー―

郭小軒

この写真は「最高に咲いた年と言われています」

大きな写真を指しながら、荒神谷博物館の副館長青木昭さんが言う。

青木さんによれば、荒神谷には6枚の古代ハスの田んぼがあり、最盛期の栽培面積は5000平方メートルに達したそうだ。

荒神谷の古代ハスは、品種をオオガハスという。1940年代、燃料不足を補うため、東京都は地下の草炭資源に着目した。偶然にも千葉県検見川地域の湿地を採掘した際、縄文時代の船だまりを発見し、その中で3粒のハスの種が見つかった。1952年、植物学者の大賀一郎博士がその中の1粒の開花に成功し、シカゴ大学原子核研究所による土壌測定で、その種が弥生時代以前のもの（今から2,000から3,000年前）であると推定された。よって花は大賀蓮（オオガハス）と命名され、世界中で大々的に報道された。

後に、オオガハスは千葉県の天然記念物に指定され、友好親善と平和のシンボルとして、根分けや株分けされ、日本は元より世界各地に贈られた。最初にオオガハスを分けてもらった施設がそれを繁殖し、また他の施設へと贈ることが数十年に渡り行われてきた。今やどれほどの施設がオオガハスを栽培しているのか、青木さんも分からない。ちなみに荒神谷のハスは、1988年に島根県大田市から贈られたものだ。

私が中国出身だから言えるのだが、ここまで読んだ中国人はきっと、壮大な物語がそろそろ出てくるのではないかと期待を膨らませているだろう。しかし、このハスを保護し育てる日常は、ほとんどが地道な試行錯誤の繰り返しだ。

「今年は花がよく咲いたんです」と青木さんは言う。

当初大田市から贈られたハスは15株で、1220平方メートルの田んぼに植えられた。今は最盛期から4000平方メートルに縮小し、花の数もここ数年大きく減少している。今年ここまで回復するのにかなり苦戦されたのだ。

「ここにザリガニがたくさん住んでいて、田んぼに穴を開けて、そのお陰で水が溜まらない状況がずっと続いていました」

でも農薬を使いたくないため、職員達は田んぼの水が漏れないように田んぼの周りに防水シートを敷き、子供たちにザリガニ釣りを楽しんでもらうことを考案した。これらの方法により、古代ハスは、中国で言う「科技与狠活」（直訳は「技術と過激な手段」）にさらされなくて済む一方、効率はもちろん下がる。

「ザリガニは一度に数百匹の卵を産むので、なかなか完全に減らすことはできないです」

しかし、一番厄介なのは雑草だった。

「以前は人力で草取りをしたと聞いてますけど、草はもう中の方にたくさん生

很多小龙虾，它们会在地里凿洞，水就会全部流出去。”由于不想用农药，荒神谷的工作人员请人在田地周围铺了防水布，还想出了让孩子们来钓小龙虾玩。这些方式虽然让古代莲免遭“科技与狠活”，但并不高效。“小龙虾一次就能产数百个卵，不可能根除。”然而，最麻烦的是杂草。“听说以前会人工除草，但现在很多草已经长得很深了，弄不好就会伤到藕节，所以就作罢了。”漏水最严重时，有部分田地已经开裂，导致不少藕节枯死，所以工作人员不得不在做好防水后把临近的藕节移植过来，但其生长又因为杂草受了不少影响。

也许正是因为保育古代莲有诸多不易，在谈到荒神谷是否也会将这里的古代莲赠至其他机构时，青木说：“必须设置一定的门槛，比如确保莲花能够被用于地方振兴或者城市规划相关的项目中，被好好展示和用心呵护。”

我想起了前些天去剪发时候发型师对我说的话。他说日本人的头型“又扁又方”，发型师们不得不潜心钻研、提高技术。（虽然中国人的头型也好不到哪去，但）放眼日本的纵横，这种观念几乎无处不在。日本作为岛国，资源有限又天灾不断，这迫使日本人努出了一骑绝尘的逆商，日本也因此拥有了今天的发展水平和国际地位。

话说回来，古代莲之所以在荒神谷，和40年前在此地出土的青铜器脱不开干系。这些青铜器中有铜剑、铜铎和铜矛，其制作时期和古代莲同属弥生时代。

现任荒神谷企画監的宍道年弘参与了当年的青铜器挖掘工作，“人们排着队来参观，还有直升飞机来拍摄。”他说，“铜剑和铜矛本来是从中国和朝鲜半岛传来的，进入日本后，很快由武器演变成了祭典用品。通过这种演变能看到历史的脉络，以及日本和中国、朝鲜半岛从弥生时代起就有的渊源。”

今天的荒神谷，接待的游客中有不少外国友人。就在我们所在期间，还见到了一对抱着宝宝前来的巴西夫妇。“很多来自巴西的游客就在附近的工厂工作，他们周末常常在园内的烧烤区烧烤，”青木说。

临走时，我注意到荒神谷的前台售有古代莲的种子。这些有故事的小种子，平等地欢迎每一个游客买回自家栽种。相信它们的生命和故事，会继续在荒神谷也会在新的土壤中长出新芽，再结出藕节，被呵护着，延续下去。

えていてハスも芽を出しており、下にはハスの株もあったりするので、ハスを傷めてはいけないということで草取りはやめました」

漏水が最もひどい時は、一部の地盤に割れ目が入り、多くの株が水不足により枯れてしまった。そのため、職員達は防水工事後、隣接する田んぼのハスの株を移植しなければならなかったのだが、その成長も雑草に影響される。

このように、古代ハスの保護は決して簡単なものではない。それゆえ、他の施設にハスを贈る時、青木さんは「町おこしや街づくりに使ってもらえるか、ちゃんと人に見てもらえるような施設で、大事に育ててもらえるか」などと、一定の基準を設けていると言う。

先日行ったヘアサロンで聞いた美容師の言葉を思い出した。彼は、日本人の頭の形は「平らで四角い」から、美容師は一生懸命技術を磨くことを要されると言っていた。（中国人の頭の形が日本人より良いとは思えないが、）島国の日本は、常に限られた資源と予期せぬ自然災害と戦ってきた。その中で超強力な逆境力が鍛え上げられ、現在の日本の発展と国際地位に繋がったのかもしれない。

そもそも古代ハスが荒神谷に咲くのは、40年前にこの地で発見された青銅器が直接関係している。これらの青銅器には銅剣、銅鐸、銅矛があり、その製作時期が古代ハスと同じく弥生時代なのだ。

現在荒神谷博物館の企画監を務める宍道年弘さんは、当時の発掘作業に関わった。

「たくさんの方が並んで見学に来られましたし、ヘリコプターも飛びました」と彼は言う。

「銅剣や銅矛は元は中国や朝鮮半島のものですが、日本に入ってきたら、すぐに武器からお祭り用の祭器として変わってくるんです。弥生時代において大陸から日本へ渡来してきた人々によって、これらの青銅器がもたらされたのです」

今の荒神谷には、多くの外国人観光客が訪れる。私達が滞在している間にも、赤ちゃんを抱えたブラジル人夫婦が来ていた。この地域に住むブラジル人の多くは近くの工場で働いており、週末はよくバーベキューサイトでみんなでバーベキューをしているそうだ。

帰り際に、荒神谷の受付で古代ハスの種が売られているのに気付いた。これらの小さな種は、あらゆる人の手に渡り、植えられる。そして古代ハスの生命と人々の努力とそのストーリーは、荒神谷で、新たな土壌で、今後も芽を出し、株を作り、未来に継がれていくだろう。

守护家园的植物、海岸线上白色的花——“滨防风”

汤聪

活了30多载，第一次听说“滨防风”这个植物（在中国大多人叫它珊瑚菜），由于好奇上网查阅了图片，“这不会是菜花的兄弟吧，也太像了！”这是我对它的第一印象。更有趣的是它的外表虽然平凡，但却隐藏着许多意想不到的用途。除了作为高级食材和中草药外，滨防风还有防风固沙的功能，对于居住在海边的居民来说有着非常重要的意义。值得一提的是，在中国滨防风被列为国家二级保护植物，可见这种植物的珍惜可贵。这种低调神秘的植物竟然长在沙滩上，让人不禁感到好奇。

带着众多的疑问，我们采访了长滨地区自治协会会长板垣祐治，在板垣会长的帮助下了解到了更多关于滨防风的故事。

“滨防风是以盐和水为原料的伞形科植物，生长在海边沙滩和近海山地，根茎深扎地下80厘米，叶子能有效覆盖地面，从而防止飞沙。”板垣会长带我们去长滨海岸一边参观一边介绍。7月份已经过了花期，所以我们只看到了少数白色的

故郷を守る植物・海岸線の白い花——「ハマボウフウ」

湯　聡

30年以上生きてきて、初めて「ハマボウフウ」という植物の名前（中国ではほとんどの人が「珊瑚菜」と呼んでいる）を聞きました。インターネットで画像を検索してみると、「これはカリフラワーの兄弟じゃないか?すごく似てる!」と思ったのが最初の印象でした。さらに面白いことに、見た目は平凡でも多くの予想外の用途が隠されていました。高級食材や漢方薬として使用されるだけでなく、防風・砂止めの機能も持っており、海辺に住む人々にとって非常に重要な意味を持っています。特筆すべきは、中国ではハマボウフウは国が指定した保護植物だということです。この珍しい植物が砂浜に生えているとは、驚きです。

多くの疑問を抱えたまま、長浜地区自治協会の会長である板垣祐治さんにインタビューを行い、ハマボウフウについてさらに詳しい話を伺いました。

「ハマボウフウは塩と水を栄養素とするセリ科の植物で、海辺の砂浜に生育し、根茎は地下80センチメートルに深く、その葉が地面を効果的に覆い、飛砂を防ぎます」と説明しながら、板垣会長は私たちを長浜海岸に案内してくれました。7月はすでに花の時期を過ぎていたため、白い花はわずかしか見られませんでしたが、花の咲く季節には砂浜が一面真っ白になり非常に美しいそうです。板垣会長は、「ハマボウフウが増えて砂が見えなくなるのが理想ですが、自然と戦うのは難しいです」と話していました。過去の過度な採取のため、ハマボウフウの数が減少し続けました。絶滅を防ぐため、自治協会と学校が連携、そして行政も関わり、ハマボウフウの再生に取り組みました。

「秋になると、島根県立出雲農林高校の植物学専攻の生徒たちが、小学生たちと一緒にハマボウフウの種を収穫し、高校生たちが学校に持ち帰って発芽させ、翌年に苗を砂浜に戻します」と板垣会長は述べました。この活動は14年間

花朵，板垣会长告诉我们花开的季节沙滩一片洁白，非常美丽。板垣会长表示：“我希望滨防风能多到连沙子都看不到，那才是最理想的，但与大自然抗衡太难了。”由于过去的过度采摘，滨防风的数量越来越少，为了防止灭绝，自治协会和学校共同努力，加上政府的加持，使滨防风的再生见到了希望。

“到了秋天，岛根县立出云农林高中植物学专业的学生们会带着小学生的弟弟妹妹们一起采收滨防风的种子，然后再由高中的哥哥姐姐们带回学校育苗，待到第二年将育好的苗种回到海滩上。”板垣会长表示。就这样一直坚持了14年，并且在海边设立了“让我们一起保护滨防风吧”等内容的指示牌，在当地居民的共同努力下，采摘行为已经大大减少。当我好奇的问板垣会长为什么不多叫些人多种植一些种子的时候，板垣会长解释说：“因为种子的数量有限，而且让小学生亲自种植，有助于增强他们的环保意识，只有亲身体验才能理解种植的辛苦，也就不会想去采摘了，这才是真正的目的。”

同时，这些年来，出云农林高中的植物学专业的师生们也一直在努力研究滨防风的培育方法，并形成一系列研究成果，这些研究成果在国内相关领域的比赛中取得了优异的成绩。

“长滨海岸沙丘地带是长滨地区居民最为珍视且感到自豪的地方。我们有义务保护好它去造福后代。”板垣会长给我们介绍完关于这里的国引神话故事之后这样说道。就像白色

象征着纯洁、和平和神圣一样，白色的滨防风便生长在这片有着美丽神话传说的土地上，善良的人们与纯洁的滨防风互相守护，共同生存。

続けられており、「ハマボウフウを守ろう」などの看板が設置され、また地元住民の協力のおかげで、採取行為は大幅に減少しました。私が「なぜもっと多くの人に種を植えさせないのか」と尋ねると、板垣会長は「種の数が限られているのと、小学生自身に植えさせることで、彼らの環境保護意識を高めることができるからです。実際に体験することで植える大変さが理解でき、採取しようとは思わなくなるのです。これが本当の目的です」と説明しました。

また、出雲農林高校の植物学専攻の教師と生徒たちはハマボウフウの育成方法の研究に取り組み、一連の研究成果を得ており、関連分野の全国大会で優秀な成績を収めています。

「長浜海岸砂丘地は、長浜地区の住民が最も大切にし、誇りに思う場所です。私たちにはそれを保護して後世に残す義務があります」と板垣会長は、ここにまつわる神話の話を紹介した後に語りました。白色は純潔、平和、神聖を象徴するように、白いハマボウフウはこの美しい神話の土地に育ち、善良な人々と純潔なハマボウフウは互いに守り合い、共に生きています。

A magazine about
Shimane Prefecture, Japan http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/

梦之港 编辑：郭小轩、汤聪

Publisher: 岛根县环境生活部文化国际课

关于本杂志，您有任何意见或疑问请与我们联系。
bunka-kokusai@pref.shimane.lg.jp

发行：岛根县环境生活部文化国际课

Bianca Chan

Guo Xiaoxuan

Carolina M Miura

Park Hyeyeong

Tang Cong